

瓦谷山



瓦谷山だより



発行日 2012年6月吉日
発行人 (宗) 真光寺
岡本和幸
印刷 現代社
編集 (宗) 真光寺

問い合わせ先
(宗) 真光寺
TEL 0438-75-7414

○お寺HP
<http://www.shinko-ji.jp/>
○上総自然学校HP
<http://www.shinko-ji.jp/satoyama/>
○お寺ブログ【瓦谷山だより】
<http://sinkoji.cocolog-nifty.com/news/>

vol.20

ごあいさつ

努力することが不死の境涯である。怠けることは死の境涯である。

（『ダンマパダ』）

冒頭の言葉はお釈迦様が実際に語られた言葉を集めたといわれる、原始仏典『ダンマパダ』の言葉です。生きるということは、努力し続けるということであると読み取れます。仏教入門にあたり、第一に守らなければならぬのは「南無帰依仏 南無帰依法 南無帰依僧」という三帰戒ですが、私はこの「南無帰依仏」を、「私は理想に向かって常に努力し続けます」と訳します。仏とは真理であり、理想的な生き方を示した方であり、いただいた命を最後まで大切に生きるよう努力し続けた方でありますから、努力することは、仏教のもっとも大切な教えの一つであると考えられます。有名な禅の公案に、「磨（ま）（せん）の公案」があります。中国の唐の時代の禅僧南岳と、弟子の馬祖との問答です。

朝から晩まで熱心に坐禅をしていた馬祖に対し、師の南岳が、「お前は何かをやっているのか」と質問しました。馬祖は、「坐禅をしております」と答えました。南岳は、「何のために坐禅をしているのか」とさらに質問しました。馬祖は、「仏になるために坐禅をしています」と答えました。すると南岳は黙って傍らの瓦を拾い、石の上でゴシゴシと磨き始めたのです。馬祖は、「瓦を磨いてどうなさるのですか」と問いました。南岳は、「瓦を磨いて鏡にするのだ」と答え、馬祖はその言葉を聞いて、ハッと悟った、という問答です。

この問答は、「瓦を磨いても鏡にはならないように、凡夫である人間が坐禅をしたからといって仏になるのではない」という解釈もできます。これに対し道元禅師は、『正法眼蔵』の「古鏡」の巻に、「もし鏡とならずば、人ほとけになるべからず。を泥団なりとかるしめば、人も泥団なりとかるからん」とお示しになっています。道元禅師は「磨（ま）の公案」を、何のためとか誰のためとかいった思いを捨て、ただ磨くことで瓦は瓦の仏となり、自分は自分の仏になるというふうにとらえられ、南岳が「瓦だって磨

けば必ず鏡になる」と馬祖を叱咤激励し、手助けした話として私たちにお説きになったわけです。仏教のさとりとは一時的・超人的なものではなく、自分という仏をいつも冷静に見つめ、ふんだんの努力を続け、いただいた命を精一杯に生きつくすところに現われるものなのであると思います。

真光寺はこのところテレビ番組で、樹木葬墓地をご紹介いただいたり、あるいはテレビのロケ地としてご利用いただいたりしています。また袖ヶ浦市の平岡公民館に協力し、子供たちが生き物について学ぶ場所として、新田奥の棚田をご利用いただきました。私どものこれまでの努力の積み重ねが、少しずつ成果となって現れているのかと思っています。畑の作物は、手を入れれば入れるほど、実りを多くするものですが、山も木々も、そして人も同じであると思います。山内一同さらなる努力を積み重ねていきたい所存です。

真光寺の弟子、手島涼仁は無事に、大本山永平寺に修行しています。瓦を磨く努力を続け、本来の私に気づき、生涯努力し続けることのできる自己を実現できるよう、頑張つて欲しいと願っています。まもなくお盆です。皆様のご参詣をお待ちしております。

合掌

住職 岡本和幸



行事報告

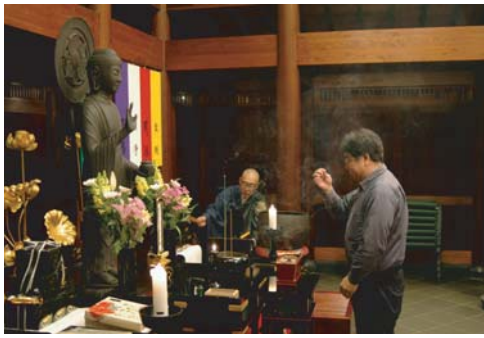
◇七日法要〔三月〕

午前は授戒式、午後は里山散策をしました。



◇東日本大震災追悼法要〔三月十一日〕

震災から一年、被災者のご冥福をお祈りし、法要後、仏殿前にて萬灯供養を行いました。



◇彼岸会法要

〔三月十七日 縁の会〕
〔三月十八日 檀信徒〕

春の彼岸法要の後、恒例の催事をしました。
十七日は“コアラゲンはいごうまん”さんの漫談、
十八日は“キャラメルマシーン”さんによるコン
ビマジックショーを行いました。



◇書家 土井伸氏個展

〔三月二十四日～四月八日〕

◇お寺に泊まろう里山満喫プラン

〔三月二十七日～二十八日〕参加者八名

◇日帰り坐禅・写経体験プラン

〔三月三十一日・四月五日〕参加者十四名

◇お寺に泊まろうのんびり修行プラン

〔四月二日～四月三日〕参加者四名

◇七日法要〔四月〕

授戒式、月例供養の後、午後は植樹祭を行
い、四十本、十一種類の木を植えました。
今後美しい里山の森を目指して再生して
まいります。

◇七日法要〔五月〕

授戒式、月例供養の後、午後は森の散策を
いたしました。



坐禅のようす



日帰りプランの昼食



4月植樹祭



5月里山散策

今回は、縁の会の窓口として事務所を担っている椎野氏を紹介します。

「お寺で何の仕事してんの？」友人、知人からよく聞かれる質問です。私が机に向かっているのを見て、おそらく皆さんも同じ疑問をお持ちになったことがあるのではないのでしょうか。お坊さんの仕事なら容易に想像できますが、その他にどういった仕事があるのでしょうか。特に屋外で能動的に活動することの少ない私の仕事は、やや難解なところがあるらしく、よくあるのは「住職のお子さんですか？」との質問。これを岡本住職にお話すると「兄弟の間違いだろう」と、憤慨されるので、ここは岡本住職の名誉のためにも私の役割をご紹介します。

ご法事やお参り、ご見学のご案内や電話番号というところは皆さんにもある程度ご理解いただいているかとは思います。その他に私の主な仕事は①墓地経営許可申請書類とそのための図面作り、工事手配②お寺のホームページや広告、見学会の企画③地元野菜の販売、などなど。①番は私が千葉大学園芸学部卒業で、過去に造園の設計技師をしていたことが幸いし、退任された前山崎寺務長の仕事を引き継いだ形です。最近の仕事は旧伽藍跡地の新普通墓地の計画と許認可申請業務になります。これは既に竣工し、皆様のお申し込みを待ちしている段階です。手前味噌ではありますが真

光寺の墓地は他所に比べてかなり悠々としており花木も多く大変良い場所ですので、墓地をご検討されるのでしたら一度はご覧いただくことをお勧めいたします。また樹木葬墓地に関しましては、第二期区画から担当し、この4月には植樹祭の計画を担当いたしました。昨年度の植生調査の結果を踏まえて以前と手法を変えましたので、皆様におかれましては戸惑いもあつたかと存じますが、今後はわかりやすく、皆様が真光寺の里山作りに力を添えていくことができるよう努力いたします。

②番の広報的な仕事の中では次のことをお伝えするよう心がけております。真光寺はその中に大きく分けて三つの側面を有しています。一つ目は以前から続く地域のお寺としての側面、二つ目は樹木葬墓地、三つ目は上総自然学校の母体としての側面です。それぞれは普段あまり関わりなくそれぞれの行事をそれぞれ催しているというのが真光寺の現在ですが、この三つの中心には岡本住職の願う布教があります。瓦谷山だより第1号から「開かれた禅センター」という言葉に言及されており、こうしたことをより多くの方に知っていただく機会を作るのが私の仕事になります。

こうした趣旨をお伝えするのに学生時代の付き合いが幸いして、広告関係の専門職の方と気安くしていただいていますので、三本柱を総合的に扱う体系的なホームページ作りや、より多くの方に真光寺を知っていただけるような広告計画に勤めることができています。この春にはホームページがリニューアルいたしました。真光寺の伽藍紹介や、翌月の予定のご紹介、瓦谷山だよりのバックナンバーを掲載するなど以前より充実の内容になっております。是非ご確認をしてみてください。

③番、これはわたくしが個人的に情熱を傾けている仕事です。奈良の中山間部出身の私は、田舎に思いいれがあります。実家は先代まで兼業の柿

農家を営んでおり、畑の風景は私の原風景でもあります。しかしながら跡継ぎの問題などからそうした畑地が切り売りされたり、農地転用されたりで田舎の風景がかつて知りたる風景でなくなりつつあるのは、どこにでもある問題であるのだなと田舎に生まれ、都会で就学し、今日、田舎に勤めるようになってから以前より増して感じています。こうした場所で生産される作物に、より大きな価値を持たせることができれば、果たして農村景観の担保につながるのではないかと思い、檀家さんにお願ひしてこの地域の野菜をお寺の行事に合わせて出品、樹木葬の方々や自然学校の参加者の皆様を知っていただけるよう努力しています。まだまだ未熟者ですが、こうした気持ちと技術をもつて真光寺の未来を描く職にあたっておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



- 4 -

団参旅行のご案内

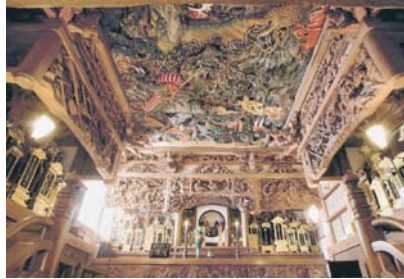
本年は群馬県沼田市「迦葉山」、越後「西福寺開山堂」、曹洞宗「雲洞庵」一泊二日バス旅行を企画いたしました。

沼田市「迦葉山」さまは天狗の寺として知られ、高尾山薬王院、鞍馬寺と共に「日本三大天狗」の一つに数えられています。

越後「西福寺開山堂」は、正式には赤城山西福寺さまという曹洞宗の寺院で、開山堂をはじめ山内には、幕末の名匠 石川雲蝶が手がけた彫刻絵画などの仏教的な文化財が多数あり、心の安らぎを求めて、多くの方々が参拝に訪れるというお寺です。



迦葉山の天狗堂



西福寺開山堂の彫刻

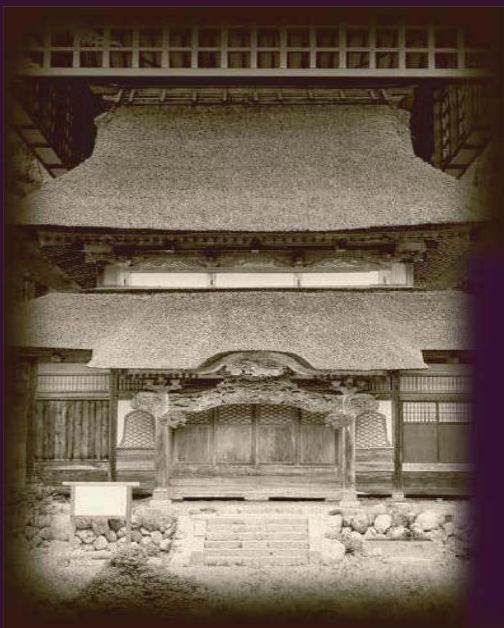


雲洞庵『千手千眼観音』



雲洞庵『長生きの水』

真光寺 団参旅行



西福寺 開山堂

日時 10月21日(日)～22日(月)
日程

1日目 真光寺→千葉駅→東京駅→沼田市→湯沢温泉

2日目 西福寺開山堂→雲洞庵→東京駅→千葉駅→真光寺



雲洞庵の参道

費用 30,000円
申込み 真光寺までお電話にてお申込み下さい。
詳細につきましては同封の別紙旅行案内をご参照ください。

真光寺 0438-75-7414

上総自然学校（里山再生活動）



二月から五月は「手作り風上げ」に始まり「自然観察会」「ヨモギ餅作り」「畦塗り」「田植」「古代米田植とヨガ」とイベントが目白押しとなりました。中でも田植が一番人気のイベントで、約百二十人の方にご参加頂きました。小学生や乳幼児のお子様も多く、まさに幼稚園の様でした。ほとんどの方は裸足で田んぼに入り、ひんやりとした泥の感触や、泥の中を歩く歩きづらさを楽しんでいました。普段の生活では足は靴に守られ、固いアスファルトの上を歩くことがほとんどです。裸足で田んぼに入ることにより足裏に「冷たい!」「にやるつとする!」「ひゃあつ!」といった様々な刺激を受け、そこから少しずつ心身ともに解放されていくのが、こちら側にも伝わってきます。そして気がついたら無心で作業をしている、という方がほとんどです。「ここに来て裸足で田んぼに入らなければ来た甲斐がない!」と断言されるかたもいらつしやるほど(笑)。ぜひ皆様も裸足で入る田んぼを体験にいらしてください。

そして今年から始まったニュープログラム「田んぼとヨガ」。真光寺では古代米(紫米・黒米・赤米)も育てています。古代米を育てながらヨガをしよう!というやや強引なプログラムです(笑)。軽く田んぼ作業をして心身ともにほぐれたところで、ヨガで自分の内側に意識を向けて、さらに深いリラクゼーションに入っていきます。田んぼで過ごす贅沢なひととき。

皆様のご参加お待ちしております!

イベント日程

◇谷津田のお米作り

- 『稲刈り』★
・九月十五日(土) 十時～十六時
十六日(日) ※各日帰り
- 『収穫祭』★
・十月十三日(土) 十時～十六時
十四日(日) ※各日帰り
- 『紫米稲刈り&ヨガ』◎
・十一月十七日(土) 十三時～十七時

◇自然観察会など

- 『焚火で豆腐パン焼き』★
・十月二十七日(土) 十三時～十五時
- 『干し柿作り』☆
・十一月二十四日(土) 十三時～十五時
- 『森林整備イベント』★
・十二月八日(土) 十時～十五時

〈参加費〉

- ★大人二千円/小学生千円
- ☆八百円
- ◎大人三千八百円/小学生千五百円

※小学生以下無料

※ご参加頂くにはお申込みが必要です。ファックス・電話・メールにてお申込み頂けます。(連絡先は最後のページに記載あり)





★里山の生物

トウキョウサンショウウオ



一匹の雌から
バナナ型の一
対の卵のうが
産まれます。



両生綱有尾目サンショウウオ科。
関東地方の標高300メートル以下の丘陵
地にある湧水や池、水田の水路、たまり
水などで産卵します。繁殖期は1月中旬
から3月位まで。産卵以外のときは、ミ
ミズやモグラなどが掘った穴の中や、倒
木の下などに隠れて単独で生活していま
す。暑さに弱く夜行性のため、産卵期以
外では滅多に見つけることが出来ません。

☆千葉県レッドデータブック・A
最重要保護生物
☆環境省レッドリスト・VU
絶滅危惧Ⅱ類

お米 販売しています！

里山米

【品種】こしひかり

【農薬】いもち病予防の種子消毒。田植から収穫
まで田んぼでは農薬は使用していません。

【肥料】有機肥料

【精米】一時間かけて低温で自家精米

【価格】玄米 五百五十円/kg
白米 六百円/kg

古代米

古代米とは稲の原種に近いお米で、赤や黒の色
がついてます。白米と比べて栄養分を多く含む、
薬膳料理にも用いられていました。おはぎやお
赤飯のルーツとも言われています。

【種類】紫米・黒米・赤米

【価格】紫米 三百五十円

黒米 三百円

赤米 二百五十円

※各百五十グラム

もち米

【品種】つきもち

【価格】八百円/kg

※古代米・もち米共に農薬、肥料はこしひかりと同じ

【ご注文方法】ファックス・電話・メールにてお
申込み頂けます。（連絡先は最後のページに記
載あり）

「楽しいお米」セット

「楽しいお米」パッケージ（写真・ロウ引き茶封
筒）に入れて、古代米の説明と使用方法もお付け
しています。ちょっとした贈り物などにもいかが
でしょうか？



・赤米 / 紫米 / 黒米 / もち米(300g) のセット
・価格 1,000円（定価より150円お得）

☆残留農薬検査二百種類全て不検出でした
（検査機関：つくば分析センター）
☆玄米の放射線測定結果（自主検査）
ヨウ素・セシウム¹³⁴・セシウム¹³⁷
（検出限界値 10ベクレル/kg） 検出せず
☆収益金は「上総自然学校」の里山再生活動
費に充当します。

修証義に学ぶ

住職 岡本和幸

イラク戦争

アメリカとイラクの戦争は、遠い過去のように感じます。

ブッシュ大統領による勝利宣言が華々しく報道されたのはいったいいつの事だったのでしょうか。私たちはイラクの戦争はすでに解決したような錯覚に陥りがちです。しかしイラクはいまだに戦後の混乱の渦中にあります。今でも多くの血が流れ、巻き添えになる人たちがたくさんいるのです。

当時、世界中で一千万人以上の人々がこの戦争に反対を表明し、デモや集会を行なったといわれています。これはベトナム戦争時を上回る数だそうです。しかし戦争終結宣言のちは、今日様々な反省がなされているとはいえ、アメリカが正義のための戦争であったとの主張を変えることはな

戦争の論理

いと思えます。この戦争は正義のための戦争だった、アメリカはフセイン政権の圧制から人々を救ったというような論調がなくなることはおそらく有りません。

これは全国曹洞宗青年会の会報誌上で篠原鋭一師が紹介されたものです。

シナ事変はシナを憎いとか、その領土を奪ってしまいたいとか、いうことからおこったものではありません。日本、満州、シナ、この三国が固く手を握り合って起たねば、東洋永遠の平和も得られぬ。世界の平和も得られぬ。それを諭して日本が手を差し伸べているのにシナは振りむこうともせぬ。しかもそれはシナの国民政府とその軍隊の一味であって、シナの一般民衆ではない。がしかしシナの政府が日本の忠告を聞き入れぬのであるから、仕方がない。

シナの政府は日本の忠告を聞き入れぬのみではない。その軍隊は日本の軍隊を侮辱するようなことまであえてした。そこでやむを得ず「反省を求めるための戦い」を始めた。それでもシナ政府や軍隊は反省せぬので、万やむを得ず「膺懲のための大軍」を進めることになり、戦線は北支から中支に広まり首都南京の攻略となり、今日は南支にまで及ぼさんとして「国民政府を相手にせず」ということまでなつたのであります。しかしここに来るまでには、幾たびも情誼をつくして忠告し、さらに南京陥落後においては、ドイツ大使の調停斡旋もあつたのであるが、何としても日本と手を握ろうとしない。国民政府はシナの民衆がどんなに苦しんでも、領は焦きただれてても、和を結ばぬというのですから、仕方がない。日本は今後国民政府を相手とせず、日本の真意を解して新たに

を確保することとなつたのであります。

先輩の僧侶がこのように大政翼賛の文章を發表し、戦争という名の殺人に荷担していたという歴史的事実を目の当たりにするとき、私は同じ曹洞宗の僧侶として慙愧の念にたえません。檀信徒の皆様にも衷心より詫言ひしたいと思います。

それにしてもこの文章、アメリカがイラクに対して宣戦を布告した時の言葉に実に似ていると思いませんか。あるいは北朝鮮の理屈にもよく似ていると思います。このような論理はおそらく当時の政府が宣伝していたものでしょう。日中戦争を基点として、日本は「五族共和」「アジアの解放」を旗印に太平洋戦争へと突入していきます。

その結果日本人も多く死に、アジア諸国に大きな爪あとを残してしまいました。またこれに対し西洋列強は自分たちが行なってきた植民地政策を、アジアの小国が押し進めることを心よしとせず、断念させるべくハルノートを突きつけました。

しかしそうやって何度も論じたのに、聞きいれどどこか奇襲攻撃などという卑劣な行爲に出た日本政府および軍隊を反省させるため、また「アジアの植民地の解放」と「日本民族の解放」を実現するために連合国は軍隊を出動させました。その結果、日本は焦土と化し、大勢の人間が死にました。私は広島県の出身です。一つの爆弾で一瞬にして十万人が死に、放射線の影響は今日まで多くの人を苦しめています。これも戦争を終わらせ、自国民を救うためという論理で正当化されています。

太平洋戦争についてさまざまな意見があります。

私は常に、政府、社会、個人の三つの視点からこの問題を考えるようにしています。個人としては言い出せないまでも、戦争反対を標榜したり、本当の意味でのアジアの解放を願った人もいるでしょう。しかし社会としては植民地戦略や人殺しを容認したのです。さらに日本国政府がその方針として戦争という手段を選択し、多くの犠牲をかえりみずに無謀な戦いを推進したことは消すことのできないあやまちです。

戦後六十七年を経た今日でも、アジア諸国の人々は私たち日本人の過去の行為を忘れていません。私はかつてシンガポールで中国系の友人の家にやっかいになったことがあります、彼のお父さんの態度に何か不自然なものを感じました。友達に「何か失礼なことをしてしまったかな」と聞いてみると、「日本人に弟が殺されたときのことを思い出しているのだろう」と言うではありませんか。長い付き合いをしてきましたが、そんなことはまったく知りませんでした。私はこのことに驚き、心より謝りました。私個人は生まれていない時代の出来事です、私の父は兵士として従軍していましたし、私は明らかに日本国民であり、日本の社会の構成員です。そのとき、かつて日本に戦略された国の人がどんな思いを持って私という日本人に向き合うのか、少しだけわかったような気がしました。「私は関係ない」では済まされない重い過去がそこにあることを痛感した瞬間でした。

広島原爆記念公園の碑文には、「あやまちはくりかえしません」とあります。原爆はアメリカが落としたのに、なぜ「あやまちはくりかえしません」なのかと、一時議論になったことがあります。個人の立場としてはそれは理にかなっていません。しかし社会、国（政府）という単位で見るときには、やはり「あやまち」なのです。戦争を容

認したこと自体があやまちである、戦争という行ないは許してはいけないという、当時の人たちの深い願いがこの言葉に現れていることを忘れてはなりません。

殺やむる真理

人を殺してはいけません。これには何の根拠もありません。むしろ反省を促すため、自分が気に入らないから、悪事をやめさせるためという理由で人殺しをしているのが現実です。たとえば親がいくら叱つても反省をしないからという理由でわが子を殺してしまったり、若者がホームレスは労働しない迷惑な存在だからと殺してしまったり、ストーカーが自分の気持ちを受け入れようとしない相手と、戦争を仕掛ける側の論理はまったく同じだと思いませんか。

こうした論理には、欲望を満たすという視点のみが存在します。しかし、自分のやりたいことをやりたいようにやったのでは幸せにはならないのです。欲望のままに生きたのでは幸せにならないのです。たとえば食欲にまかせて好きなだけ食べたあげく、太って家から出られなくなった人を、今の私たちは笑うことができるでしょうか。

自分が幸せになるにはいったいどうしたらいいのか。それを教え、自らの拠り所とするのが宗教です。過去の大勢の人々が暗中模索し経験の中で生み出したのが宗教なのです。日本人が平気で使う無宗教という言葉がありますが、宗教とは自分が生きていく上での、自分が幸せになるための指標です。もし無宗教ならば指標を持たない人、つまりは自分は人を殺さないという根拠を持たない危険な人といった、とらえかたをされると考えてください。海外で怪訝な顔をされ、軽蔑されたり

無視されても仕方がないのかもしれない。

不殺生戒

お釈迦様は「人の命は自に由らず、他に由らず、縁による」と説かれています。縁とは接合剤のようなもの、あるいは不思議な生きるといふ力です。さらには条件と調和が整うこととも訳します。すばらしい不思議な結びつきによって私の命はあるというのです。人を殺すということは、自分を取りまく縁を壊すということです。さらに仏教は因果を説く宗教です。むやみに他人の命を奪えば、それは変えることのできない因として永遠に残ります。誰も見ていなくても自分が見えています。他の命を奪ったことが自らの心を殺伐とさせ、心は蝕ばれていきます。縁を壊して悪い因を作れば幸せになるのは難しいのです。

十重禁戒の第一は不殺生戒で、他の命をむやみに奪うことを戒めています。私の命を繋ぐ最大の縁は動物や植物の命です。私たちは動物や植物を殺さなければ生きていけないのです。もし殺しくしてしまえばもういただくことはできません。だからこそむやみに殺してはならない。それが不殺生戒です。もう一つ私が生きていくためにどうしても必要な縁があります。それは人の縁です。私たちは人の縁に包まれることで生まれ、生きていくことができるのです。仏教の説く縁起と因果の道理を信じ、この道理に照らし、自らの幸せな人生のために、絶対に人を殺さないという心を持つことを持戒といい、持戒する人を仏教徒と呼びます。

私は戦わない

欲望のままに生きることが美德とされ、そのあ

げくの親殺し、子殺しが横行する時代に突入しています。このような時代であるからこそ、仏教徒としての自覚が必要です。仏教徒は反戦ではなく、非戦なのです。戦いに反対するのではなく、仏教の真理を信じる私は自らの欲望のために戦わない、人を殺さないと決意してください。自らをいさめる戒を自覚し、仏教徒として良い縁と、良い因を作っていくと決意していただきたいのです。

つづく

ご寄進者ご芳名

金壺萬円 八島永次様

ご寄進いただき心より御礼申し上げます。皆様からのご寄付は、仏具等に使用させていただきます。当山寄進帳にお名前を記入し長く寺録に残します。

住職

野草寸言

天地は人間を讃え、人間は天地を讃える。天を敬い人を愛する心は尊い。現代人はあまりにものごとを茶化しすぎるのではないか。

宗展

縁の会施食法要のご案内

本年より縁の会施食法要は、7月は例年通り7日法要の午後開催、8月は授戒式を行わず午前・午後入れ替え制にて施食法要を修行いたします。厳しい暑さの時期ではございますが近在の寺院僧侶をお迎えし、先祖代々のご供養、故人のご供養、新盆精霊のご供養、両親縁者など、皆様のご供養を行います。また、今年新盆にあたる精霊には特別にご供養をいたしますので縁者の方は特にご参加くださいますようお願いいたします。

◇7月7日◇	◇8月5日◇	◇8月5日◇
11時00分 授戒式	午前の部	午後の部
月例供養	10時30分 受付	13時30分 受付
13時00分 施食法要	11時00分 法要	14時00分 法要

●申込み事項

①出席者のお名前、人数、お弁当の数

②出席の日時

③お迎えの有無(午前、午後)

お迎えの時間は別紙『施食会送迎案内』をご参照ください。

④卒塔婆の有無(1本 2,000円)

花塔婆の申込みは事前にFAXまたは電話で申込み下さい。

申込みの際は、故人の戒名または俗名、または〇〇家先祖代々、塔婆を建てる方の施主名をお知らせください

●供養料

⑤施食回向料 随意(5,000円～10,000円程度)

⑥新盆施食回向料 随意(30,000円程度)



行事予定

「檀信徒」

◇八月九日（木）

『山門大施食会』

午後 二時より

お盆の先祖供養を行います。卒塔婆の申込みは地域役員またはお寺へFAXにてお申し込み下さい。

◇九月二十三日（日）

『秋季彼岸会法要』

午後 二時より

秋の彼岸先祖供養を行います。法要後には落語を予定しています。

◇十月二十一日（日）～二十二日（月）

『団体参拝旅行』（縁の会合同）

住職と行くお寺の旅行です。今年は新潟方面へ参ります。たくさんのご参加をお待ちしております。

「お寺掃除」

◇六月二十四日（日）

台 新田

◇七月二十九日（日）

表場下 表場上 根澄山

「ご詠歌練習日」

六月 十二日

・ 二十六日 場所 真光寺

七月 十日

・ 二十四日 時間 八時より

八月 七日

（十月以降七時半）

九月 十一日

・ 二十五日 ※ご詠歌はどなたでもご

十月 十六日

・ 二十三日 参加できます。気軽に

十一月 六日

・ 二十日 お問い合わせ下さい。

十二月 十一日

「縁の会」

◇七月 七日（土）

『七日法要』授戒式・大施食会法要

◇八月 五日（日）

『縁の会大施食会法要』

午前・午後入れ替えにて修行いたします。

・ 午前の部 十時半 受付 十一時 法要

・ 午後の部 十三時半 受付 十四時 法要

花とうばの申込みはお寺までFAXにてお願い致します。

◇九月 七日（金）

『七日法要』授戒式・坐禅・写経

◇九月 十七日（月）

『縁の会彼岸法要』

午後 二時より

縁の会合同での彼岸法要を執り行います。法要の後は、落語を予定しています。

◇十月 七日（日）

『七日法要』授戒式・坐禅・写経

◇十一月 三日（月）

『縁の会総会』

◇十二月 七日（金）

『七日法要』授戒式・大掃除

*七日法要は昼食準備の都合上、ご出席いただく場合は必ずお電話等でご予約下さい。
午前のみ・午後のみのご参加もできます。

*電車・バスでの参加の方には送迎を致します。お電話等でご予約下さい。

■送迎時間

□電車の方 JR内房線「袖ヶ浦」駅 10時10分着 □バスの方

【土日祝】

品川発 9時35分↓袖ヶ浦BT 10時22分着

横浜発 9時40分↓袖ヶ浦BT 10時22分着

川崎発 9時25分↓袖ヶ浦BT 10時14分着

品川発 9時25分↓袖ヶ浦BT 10時12分着

横浜発 9時30分↓袖ヶ浦BT 10時12分着

川崎発 9時15分↓袖ヶ浦BT 10時04分着

【平日】

□お車の方 10時40分頃までにお越しください。

禅寺 holiday

◇1泊2日宿泊プラン

定員13名 参加者6名以上で開催
日 時 ①10月17日(水)～ 収穫
②12月12日(水)～ 忘年会
参加費 8,000円 1泊4食
内 容 里山散策・農作業・坐禅、聞法、
懇親会など里山のお寺を満喫
日 程 11時半集合、翌日13時解散

◇日帰り坐禅・写経体験

定員20名 参加者6名以上で開催
日 時 ① 9月10日(月) ② 9月28日(金)
③10月15日(月) ④10月26日(金)
⑤11月12日(月) ⑥11月30日(金)
⑦12月14日(金)
参加費 4,000円 昼食代(精進料理)込み
内 容 坐禅、写経、写仏、里山散策など
日 程 10時半集合 15時解散

◇日帰り里山体験

定員30名 参加者6名以上で開催
日 時 ① 9月 4日(火) 冬野菜の種まき
②10月 2日(火) 植付け
③10月30日(火) ピーナッツ収穫
④11月13日(火) 芋収穫
参加費 3,000円 昼食代込み
内 容 里山散策、畑作業、坐禅など
日 程 10時半集合 15時半解散

※申込みは、真光寺まで電話にてお申込み下さい。

坐 禅 会

真光寺では随時坐禅会を開催しております。
ご希望の時間に応じ、好きな時間だけ坐禅をすることができます。
初心者の方も指導いたしますので気軽にご連絡下さい。
□時 間 午前10時～午後4時まで
□参加費 随意(500円程度)
□法要等によりお受けできない時間がございますので、あらかじめ電話
にてご予約下さい。

各種お申込み連絡先

TEL 0438-75-7414 (代表) TEL 0438-75-7365 (縁の会事務局) FAX 0438-75-7630
e-mail ennokai@shinko-ji.jp (縁の会) satoyama@shinko-ji.jp (上総自然学校)